

# 「第7回石川地方会 開催報告」



## テーマ：「10年の歩みをふりかえり、未来につなげよう」

【日 時】 平成30年5月26日（土）14時～17時

【会 場】 石川県地場産業振興センター新館コンベンションホール 【参加人数】 173名

### 開会の挨拶

NPO法人日本医師事務作業補助研究会石川県支部世話人 佐久間 寛 先生



開会にあたり石川県支部世話人 佐久間氏（芳珠記念病院 院長）より、2008年の医師事務作業補助加算新設から10年を経て、医師事務作業補助者が発展途上の職種であるとの認識をされつつも、既に医療の現場では無くてはならない存在へと成長してきたことへの評価と、全国医師事務作業補助研究会のトップランナー的存在として、地方会開催7回を数える石川県支部の更なる活躍への期待を述べられました。

### 研究会活動報告

NPO法人日本医師事務作業補助研究会石川県支部 支部長 松井 圭子

支部長松井より、昨年の当支部の活動報告をさせていただきました。あわせて、医師事務作業補助業務の質向上を目指す中で、多職種間の連携強化の必要性、支部活動の強化のための会員拡大について説明を行いました。

### 特別講演 「平成30年度診療報酬改定と地域医療構想・地域包括ケア」

恵寿総合病院理事長 神野 正博 先生



石川県支部代表顧問 神野氏（恵寿総合病院 理事長）より、医師事務作業補助者の目線にたった2018年診療報酬・介護報酬ダブル改定の要点ならびに2025年問題についてご講演いただきました。また、今後、医師、医療従事者のタスクシフティングの要として、医師事務作業補助者の役割が増していく中、更なる業務の質向上に向けて不断の研鑽・自己啓発が必須であるだけでなく、多様性のある人材の登用も重要になること等、医師事務作業補助者へ熱いエールをいただきました。

### 基調講演 「医師事務作業補助者のあゆみと今後の展望」

NPO法人日本医師事務作業補助研究会理事長 矢口 智子

矢口氏からは「医療崩壊」という社会情勢の中から医師事務作業補助者が誕生し、その後の10年の歩みの中で役割を拡大し成長してきた経緯についてお話をいただきました。そして「医療の効率化と生産性向上」「医師の働き方改革」へ貢献する職種として評価されつつあることから、職種確立に向けて

1) キャリアパス形成 2) 雇用の安定化、多様性 3) 教育体制を整備することを掲げられ、これらの活動計画や課題について説明がありました。



## パネルディスカッション 「～拡大する活躍の場から～取り組みと今後の課題について」

### ① 『学術支援業務の専門性』

岡本 康宏（真生会富山病院 医療秘書課主任）

### ② 『医療秘書による多職種業務の支援～院外処方への関わりを中心に～』

石本 真菜（寿人会木村病院 事務部総務課）

### ③ 『当院におけるNCD登録業務の経過と発展～業務効率化を目指して～』

小村 美聡（小松市民病院 診療部）

### ④ 『当院におけるクリニカルパス代行入力について』

渡辺 裕子（芳珠記念病院 医療サービス課）



4名のパネリストの皆様から、各医療機関で拡大している業務の内容と課題、今後の目標について発表いただきました。それぞれの発表から、医師や多職種との連携によって「医療の質向上」に繋がる成果が見え、医師事務作業補助業務の新たな可能性を感じることができました。

## 閉会の挨拶

NPO法人日本医師事務作業補助研究会石川県支部顧問 勝木 保夫先生

閉会にあたり石川県支部顧問 勝木氏（やわたメディカルセンター理事長）より、医師事務作業補助者は、医師の事務的サポートのみでなく、医療の質、病院の質に貢献できる職種へと成長したこと、またその働きによって、地域医療や地域社会の生活に貢献できるよう激励の言葉をいただきました。



## 地方会をとおして



今回の地方会では、10年を振り返りながら、皆様がともに悩みを共有し、一緒に考え、そして次のステージへと成長するきっかけとなりますようにと企画をいたしました。いかがでしたでしょうか。何かしら今後の業務に活かしていただけることがあれば幸いです。また、遠方からご参加をいただき170名を超える盛会となりましたこと、厚く御礼申し上げますとともに、開催にあたりご尽力いただきました関係者の皆様方に心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました

報告者：やわたメディカルセンター 松井 圭子